

平成25年度学校表彰 「八女高大賞」1名他

「泉が丘賞」(3名)

「泉が丘賞」は九州大会以上に出場し、本校の活性化に寄与した生徒、また教育委員会や文部科学省が主催または後援する各種大会や研究発表会等において、入賞等の顕著な功績があった生徒、また特別活動やボランティア活動等において顕著な功績があった生徒に贈られます。



赤尾 光彦(南中出身) 生徒会総務
今回、この賞を受賞させていただきとても光栄です。私は、生徒会総務を務めていたが、皆さんの支えがあったからこそ、最後まで職を全うすることができました。今まで、皆さんと協力して、様々な行事に携われたことを誇りに思います。1・2年生も八女高校の更なる発展を目指してがんばってください。



島崎 莉菜(福島中出身) 水泳部 九州大会出場
八女高校で水泳を頑張ってきた3年間がこのように賞に繋がりと、とても嬉しいです。私は目標にしていたところまで結果を出すことはできませんでした。しかし、今まで頑張ってきたことや思いがこのように形で賞をいただくことになり、うれしく思います。



寺松 翼(三瀬中出身) 学校応援団 応援団長
このような賞をいただくことができ、とても嬉しく思います。少し頼りない団長だったと思いますが、多くの先生方や仲間のおかげで最後までやり抜くことができました。厳しい応援団の活動を通して学んだことをこれからの人生に生かしていきます。これからの応援団の健闘と八女高校がよりよくなることを願っています。



「第66回卒業生同窓会新評議員」

樋口 直希(黒木中出身)
江田 佳菜子(羽犬塚中出身)
30年後の大同窓会のお世話など、これからは同窓生の一員として、母校八女高校を卒業生の皆様方と一緒に支える立場になります。先輩方皆様の御指導、よろしくお願い致します。

「八女高大賞」(1名)

「八女高大賞」は学業成績が特に優秀であり、全国的にも優れた成績を収めた生徒、また全国大会に出場し、顕著な成績を収めた生徒に贈られます。



楠 充功(黒木中出身)

◎全国高等学校総合体育大会福岡県大会 男子個人 優勝
◎第60回全国高等学校剣道大会出場

今回、八女高大賞という素晴らしい賞を頂きとても感謝しています。私が全国大会に出場できたのは、今まで剣道の指導をして頂いた畑江先生をはじめ、八女高校の多くの先生方や先輩、友達など周りの応援や支えがあったからだと思います。また、進路も第一志望に決定することができ、本当に八女高校でよかったと思っています。応援し支えてくださった全ての方々に感謝したいです。

「3年間皆勤賞」(71名)

<代表者> 井手 新平(黒木中出身)



私が3年間皆勤することが出来たのは、いつも支えてくれた周りの方々のおかげだと思います。八女高校までの道のりは遠く、毎日朝早く家をでることはとても大変でした。しかし毎朝送り出してくれる親、学校で熱心に指導して下さい先生方の協力もあり、3年間皆勤することが出来ました。ありがとうございました。

「1年間皆勤賞」(74名)

<代表者> 角 武有喜(筑後中出身)



八女高校で過ごした3年間はとても充実したものでした。こうして皆勤賞をいただいたのも毎日朝早くから学校に登校し、放課後も7時まで残って勉強する規則正しい生活を定着させることができたからだだと思います。ありがとうございます！八女高校！

いずれも無遅刻・無欠席・無早退・無欠課の生徒に贈られます。

八女高大賞だより

平成25年度 第3号

<平成26年2月28日発行>
福岡県立八女高等学校
校長 大坪 秀美
編集 企画広報課

【本号の内容】
祝卒業66回生

- ・学校表彰
- ・OB紹介
- ・66回生進路状況
- ・スキー研修
- ・寒稽古
- ・創作ダンス発表会
- ・部活動報告
- ・立志源泉録

<シリーズ OB紹介(第8回)>

しげまつごろう 重松五郎

西日本鉄道代表取締役副社長
福岡駅開発本部長
福岡国際ビジネスカレッジ理事長
福岡日米協会会長



★プロフィール

昭和25年 高2回卒業
昭和30年 長崎大学卒業
平成元年 西日本鉄道(株)入社
専務取締役就任
福岡駅開発本部長就任
平成7年 代表取締役副社長就任
福岡国際ビジネスカレッジ理事長就任
平成12年 福岡日米協会会長就任
平成17年 退任

われわれの中学、高校時代は、アメリカの六三制の導入、男女共学は高校二年から実施と、全くの混乱期であった。一方就職事情は今の比ではなく、日本の経済はアメリカの空爆により完膚なきまでに破壊され、一面の焼野原から立ち直り始めたばかりで、満足に就職出来た人は半数に満たなかった。それがやがて訪れる高度成長期に、一挙に救われることとなったのである。

私は運よく西日本鉄道(株)に就職出来た。30倍以上であった。入社後の半年間は、路面電車の車掌であった。早朝深夜の勤務よりも、車掌を一人前の人間として認めない差別感の方が辛かった。かくして約半世紀勤める事となった。

思い起こせばいろいろあるが、何と言っても、最後の10年間、本部長を勤めた「福岡駅地区再開発事業」、別名、「ソラリア開発」である。西日本随一の商業地福岡天神を、福岡駅大改造を期に再開発しようと10年間かけた一千億円の大事業であった。

この間、痛切に思ったのは、どんなに大きな仕事でも、分解してみれば、小さな作業の集積である。それを任された人が、誠心誠意完璧に仕上げるということから出来る上ということであった。千丈の堤も蟻の一穴から崩れるというではないか。

つい教訓めいてしまったが、よい機会であるので、これから社会に出る諸君にひとこと。決して与えられた仕事から逃げない。逃げてばかりいれば、やがて誰からも相手にされぬ負け犬になってしまう、ということだ。

くまがいひろし 熊谷弘

指揮者
コンサートプロデュース
ミュージックディレクター



★プロフィール

昭和26年 高3回卒業
昭和32年 日本フィルハーモニー交響楽団入団
打楽器奏者
昭和45年 日本フィル特別演奏会にて指揮者としてデビュー、その後独立
昭和54年 「日本の音楽展」を開始
第6回中島健蔵記念音楽賞優秀賞受賞
平成10年 「日本の音楽展・作曲賞」を設立
平成25年 「第九と皇帝」公演33年目を迎える

高校時代、音楽に興味を持っていた私は、仲間たちと音楽部を結成し、ささやかに活動を展開していたが、高2の時、音楽担当の大坪静子先生が赴任され、私達の活動は熱気を帯びた。昭和24年、九州行幸の折、羽犬塚中学校のグラウンドに特設されていた奉迎台に昭和天皇をお迎えし、音楽部の仲間達と、君が代を歌い演奏させていただいたことは、夢のような体験であった。大坪先生には、音楽の基礎と素晴らしさを学び、そして先生の優しいお人柄に魅せられ、全く未知の世界であった音楽家への道を志す決心をした。

あれから60年余り、創立百周年を迎え、この記念すべき年に、八女高の私の先輩である詩人、川崎洋氏の詩に曲を付け、母校の応援歌「捲き起る風」を完成させ「栄光とともに」と併せて発表できたのは、私にとって最上の喜びであり、関係者諸氏のご厚情に心より感謝している。

人の心の豊かさを求め、長年に亘り指揮者の仕事に携わってきた私は、八女高時代にその原点を見る事が出来る。心の奥に大切にしている、共に遊び、共に励ました音楽部の仲間達、そして私達を導いて下さった恩師、母校よ、ありがとう！

毎年繰返す「第九」の演奏は、自己を再認識し、量り知れない音楽の奥の深さを体験し、未知の世界に向かって進む出発点でもある。大勢の仲間達と共にベートーベンの崇高な世界に踏み入ることの出来る幸せに感謝し、永遠の理想郷に心身を捧げつつ、「第九交響曲」を演奏したいと思う。今年11月9日、「サザンクス筑後開館20周年記念演奏会」で演奏予定である。

速報!

進路状況

(2月26日現在)

66回生大健闘!!!

◎ 国公立大学: 推薦・AOのみ 計10名

| | | |
|--------|--------|----|
| 九州大学 | 医学部 | 1名 |
| | 理学部 | 1名 |
| 広島大学 | 総合科学部 | 1名 |
| 熊本大学 | 文学部 | 1名 |
| | 工学部 | 1名 |
| 佐賀大学 | 経済学部 | 2名 |
| | 農学部 | 1名 |
| 福岡女子大学 | 国際文理学部 | 2名 |

◎ 準大学 計13名

| | | |
|-----------|--------|--------|
| 防衛大学校 | (一次合格) | (最終合格) |
| 人文・社会科学専攻 | 9名 | 1名 |
| 理工学専攻 | 28名 | 11名 |
| 国立看護大学校 | | 1名 |

◎ 私立大学: 287名(推薦・AO含む)

| | | |
|---------|---------|--------|
| 早稲田大学 | 中央大学 | 東京理科大学 |
| 明治大学 | 駒澤大学 | 東京農業大学 |
| 日本大学 | 國學院大学 | 龍谷大学 |
| 関西大学 | 関西学院大学 | 同志社大学 |
| 立命館大学 | 近畿大学 | 中村学園大学 |
| 西南学院大学 | 福岡大学 | 久留米大学 |
| 筑紫女学園大学 | 福岡女学院大学 | |

◎ 短期大学 計8名

中村学園大学短大部など 全7校

◎ 専門学校 計26名

医療系専門、公務員専門など全18校

◎ 公務員(最終合格) のべ18名

| | | | |
|--------|----|--------|----|
| 国家一般 | 1名 | 久留米市消防 | 1名 |
| 筑後市職 | 1名 | 八女地区消防 | 1名 |
| 八女市職 | 1名 | 福岡県警 | 3名 |
| 海上保安学校 | 2名 | 熊本県警 | 2名 |

◎ 自衛隊関係

一般曹候補生 3名 自衛官候補生 3名

3学期八女高伝統行事への果敢な挑戦!

第1学年寒稽古

平成26年1月28日(火)～1月31日(金)

第1学年の寒稽古において、男子は剣道、柔道、トレーニングに分かれ、女子はランニング、筋力トレーニング等を行いました。最終日は寒稽古終了後に保護者に豚汁をふるまっていただきました。前日から「朝食激励会」のために、1年生保護者の皆さんが準備して下さったあたたかい豚汁を生徒たちは嬉しそうに受け取り、みんなでおいしくいただきました。



寒い中乗り気じゃなかった寒稽古
終わってみれば少し残念

一年三組 友田 華瑚(筑後北中出身)

第2学年スキー研修

平成26年1月9日(木)～12日(日)

北海道札幌テイネスキー場で3泊4日のスキー研修を行いました。最初は滑れるかどうか不安だったスキーも一生懸命練習し、3日目にはほとんどの生徒が上達し楽しく滑りました。友との絆も深まり、忘れられない最高の思い出になりました。



ゲレンデの景色流れる下り坂
雪も笑顔も白く輝く

二年七組 下川 雄志(筑後中出身)

「寒稽古を終えて」

一年二組 西田 和樹 (広川中出身)

四日間の充実した寒稽古が終わりました。正直に言うと寒稽古が始まる前は行事だからするしかないと思っていました。しかし、前日の説明会で、「非日常を体験してみよう」という言葉を受けて甘い気持ちが無くなりました。畑江先生の言葉はもともとだと思いましたが、なによりも、どうせやるのだったら前向きに受け止めて、一生懸命やろうと決意したからです。やはり気持ち一つで人は変われるようで、早朝に起き、暗い道を街灯だけを頼りにして登校するということに苦痛を感じませんでした。寒い中、声が枯れるまで大声を出し続けていました。「非日常」は予想外の驚きに満ち、楽しくもありました。今回の寒稽古は両親の助けや友達との協力、先生方の支えがあってこそ成功したものであり、自分一人では決して乗り越えることはできなかったと思います。この感謝の念を忘れず、また寒稽古で作り上げた強い精神と身体を維持し、これからの高校生活を充実させたいと思います。

「雪国の温かさ」

二年一組 馬場 成美 (荒木中出身)

初めての北海道で、今まで経験したことのないような寒さの中、スキー初日は全くといってよいほど感覚が掴めませんでした。本当に上手く滑れるようになるのが不安でした。しかし、その分得たものもありました。それは、班の友達の温かさです。手を差し伸べてくれた友人、遅れていると一人待ってくれた友人、今までそんなに仲が良かったわけでもなく、ぐっと距離が近くなりました。そんな友人やインストラクターさんの丁寧な指導もあり、二日目、三日目には楽しく滑れるようになりました。結果、最後まで数え切れない程転びましたが、諦めず挑戦し続けることの大切さを学ぶことができました。また私たちが全く異なる自然環境の中で生きる人々ならではの工夫や習慣を知ることができ、とても充実した旅行でした。辺り一面の銀世界を目のあたりにし、雪の上に寝転がってみた時は、本当に世界が変わるようでした。今まで体験したことのない極寒の中での研修でしたが、その寒さを感じない温もりに包まれた四日間でもありました。支えて下さった全ての人に感謝します。

部活動報告

祝 全国大会出場決定

◎弁論部
平成26年全国高等学校総合文化祭(茨城大会)
溝上 賢史郎 (1年 東山中出身)



祝 県大会入賞

◎卓球部
全国高等学校選抜卓球大会福岡県予選
第3位 岡山 結季乃 (1年 瀬高中出身)

◎柔道部 県大会出場
第20回福岡県高等学校柔道新人大会南部ブロック予選会
女子団体 第4位
女子個人 第4位 佐々木 玉緒 (1年 羽犬塚中出身)

◎平成25年度第15回高校生小論文コンクール
奨励賞 富久 奈々 (1年 筑後北中出身)
八女高等学校は学校賞を受賞しました

◎硬式テニス部
第1回筑後ジュニアテニス団体戦
優勝 杉本 和音(1年 羽犬塚中出身)
葉玉 晃太郎(1年 羽犬塚中出身)
平野 誠(1年 筑後北中出身)

第2学年女子創作ダンス発表会

平成26年2月6日(木)

サザンクス筑後で創作ダンス発表会が行われました。限られた時間の中でダンスや衣装、照明などを考え、練習を行ってきました。時にはぶつかり合うこともあり、悩み苦しんだ分、どのクラスも素敵な作品ができあがりました。クラスの絆もより一層深まったことと思います。



優勝 5組 「The Rosemary」



第2位 2組A 「おどるのSUKI SUKI」



第3位 4組 「変わらないもの」



実行委員長



リハーサル



舞台裏

立志源泉録 (りっしげんせんろく) シリーズ第6回

このコーナーでは10回シリーズで八女高出身の偉人にスポットを当て、お一人ずつ紹介しています。タイトルの立志源泉録とは、本校百周年記念誌の表題よりとったものです。第6回目は詩人の川崎洋氏です。

かわさき ひろし
川崎 洋氏 (中学36回卒) 昭和5年 東京生まれ

昭和19年、東京から八女郡岡山村(現八女市)に疎開し、八女中2年に編入。戦後久留米の国分に転居、松永伍一らに刺激を受けて文学に目覚め、父の紹介で詩人丸山豊を知り、同人雑誌「母音」に参加。西南学院専門学校英文科に入学したが、父急死のため中退。横須賀の米軍キャンプなどに勤める。

昭和28年、茨木のり子らと雑誌「権」を創刊、第二次戦後派と呼ばれる新鋭詩人の拠点となる。日本語の美しさを表現することをライフ・ワークとし全国各地の方言採集に力を注いだ。また1982年からは読売新聞紙上で「こどもの詩」の選者を務め、寄せられた詩にユーモラスであたたかな選評を加え人気を博した。放送脚本、童話、エッセイなど著作多数。歌の作詞経験も豊富で、NHK全国学校音楽コンクールでは4回作詞を担当した(「風になりたい」など)。平成16年御逝去。

「二十二人で・・・」

二年三組 田中 芹奈 (荒木中出身)

この創作ダンス発表会を通して、たくさんの経験をさせてもらいました。リーダーという役を任せてもらい苦労もしましたが、クラスの女子全員と接する機会が増えました。また、練習を重ねるごとにクラス全員の気持ちが一つになっていく感覚が忘れられません。しかし、最初からうまくいっていただけではありません。題材を決めることから、曲決めや衣装決めなど、あらゆるところで違いが生じました。先生方にも協力していただき、たくさん話し合いをしてようやく三組の創作ダンスが動き出しました。そしてもう一つ、三組をさらに団結させたことがあります。それは、一緒に練習をがんばっていた友達が体調不良で舞台に立てなくなったことです。皆と踊りたいと言って、家で練習をしていたことを聞き、その友達の分までベストを尽くして踊ろうと決めました。また、発表会では一緒に踊ることはできないけど、学校にこれるようになったら、二十二人全員で踊るといった新たな目標ができました。そのようななか迎えたダンス発表会本番は、一人一人が全力をつくして踊りきりました。ダンス発表会を終えて、クラスの皆への感謝とやりきった気持ちで溢れています。私達のダンスは二十二人で完結であり、全員で踊れる日を楽しみにしています。